

稱讚 二二六号

二〇二二年一〇月一日発行

「緊急事態宣言」も解除され、
漸く感染も減少しております。
しかし、今冬、ぶり返すことも
予想されますので、何卒、ご自愛
ご用心ください。

発行 浄土真宗本願寺派 稱讚寺

〒二二一〇〇七五

東京都足立区一ツ家三丁目五番二〇号

TEL 〇三―五二四二―二〇二五

FAX 〇三―五二四二―二〇二六

HP shousanjii.com

くおんごう 久遠劫よりいままで流転せる苦惱
きゆうり の旧里はすてがたく、いまだ生ま
あんにようじようじ れざる安養浄土はこひしからず
そうろ 候ふこと、まことによくよく煩惱
こうじよう そうろ の興盛に候ふにこそ。なごりを
しやば えんつ しくおもへども、娑婆の縁尽き
て、ちからなくしてをはるとき
ど に、かの土へはまゐるべきなり。
(『歎異抄』第九条より)

ひとは遠い久遠の昔から迷いを繰り返して
今日に至ったのですが、この悩み多い世は故
郷のように離れがたく、まだ生まれたこと
のない浄土は、身もこころも安養(やすまる)と
いうのに、恋しいと思うところが起こらない
のは、よくよく煩惱が根強くはげしいので



9月26日(日) 称讚寺秋季彼岸会の様子 称讚寺カメラの録画より

しょう。
だが名残り惜しく思いながらも、この世の
縁がつきて、自分の力ではどうにもならなく
なって、いのちの終わるときには、かの土
(浄土)に往くことになるのです。

(古川泰龍氏 意識)

九月二十六日、秋季彼岸会の最終日、当寺
ではお彼岸の法要を行いました。雨が降った
り止んだりの天候でしたが、山田昌三さま、
高橋八重子さま、福井恒彰さま、中木原乃既
子さまがお参りくださいました。

『仏説阿弥陀経』を誦読しながら、お焼香
いただき、『正信偈』行譜・六首引きをおつ
とめいたしました。

お彼岸というと、西方の阿弥陀さまのお浄
土を目指すための法要に思えますが、金子大
樂師は、「浄土への道は 浄土から開かれて
いる」とおっしゃっておられます。

この私がお浄土に往って、悟りを得る(仏
に成る)と言うより、既に、この世において
阿弥陀さまの方から、私に「南無阿弥陀仏」
と成られて、救いのはたらきをしておられる



稱讚寺 秋季彼岸会

2021年9月26日(日)

参拝 山田昌三様・福井恒明様

高橋八重子様・中木原乃既子様・住職の姉

言っているようなものであります。また、亡くなっていられる方の思いというより、亡くなっていくその方を常に傍に居て、温かく、誠心誠意、看病・介護され、看取る方の思いからの言葉だと思えます。

私たち多くは、死ぬとき、この世の人生に感謝して、心身の苦痛がなく、眠るように亡くなっていくことを望んでいると思います。

古川泰龍氏は『歎異抄 最後の一人を救うもの』の中で、第九条について、次のように解説しておられます。

明暗二つの名残り惜しき

さて次に、「なごりおしくおもへども、娑婆の縁つきで、ちからなくしてをはるときに、かの土へはまいるべきなり」とあります。

この「なごりおしくおもへども」というのは、臨終における人間の感情を指しているのでしょうか、死に臨んで「なごりおしくおもへども」というのは、どんな心境でしょうか。

そのことを、あらためて味わわせていただく縁が、このお彼岸会と思うことです。ある在宅看護師さんで、多くの方の看取りまで寄り添っておられる方の「最期の最後は、他力本願でというのが最高」の言葉が気になっております。

私たち浄土真宗の門信徒並びにお念仏のご縁に出遇っている者にとって「他力本願（本願他力）」は「他力といふは、如来の本願力なり」の一つでしかなくことです。これを他人の力と捉え、自分以外の人の手によって、葬ってもらおうのが、「一番良い」と

わたくしたちは通常死に臨むといえ、まづ死の恐怖、生への執着に戦うこと、その臨終ははなはだ絶望的で暗澹たるもののように思いますが、ここに述べられている臨終の心境にはそのような暗澹たる思いはないようです。むしろ穏やかで平安なものすら感じられるのですが、「なごりおしくおもへども」とは、どのような臨

終の心境をいうのでしょうか。

たとえば同じに「なごりおしくおもへども」といつても、死にゆくひととそれを見送るひととは、その思いは大きくちがってくるのではないのでしょうか。そして死にゆくひとの名残り惜しさなど、見送るひとには到底想像もできない深刻なものも分かります。

また、将来に再会の希望のある別れは、たとえ名残り惜しくとも、明るく別れることができるでしょう。しかし将来に再会の希望がない別れだとしたら、それは同じに名残り惜しいといっても実に暗澹たるものにちがいはずです。

そのように臨終の場合も「なごりおしくおもへども」に、明暗二つの別れがあると

たといわしたちが念仏申す身になったとしても、念仏を知らないひとと同じに「ちからなくしてをはる」ことに変わりはないと思ふのです。

しかし念仏申す身には、「かの土へはまいるべきなり」という未来の展望と明るさがあるのです。ですからたとえ「ちからなくしてをはる」とも、念仏申す身の「なごりおしくおもへども」には希望と明るさが漂っているのです。・・・

「最期の最後」ではなく、今既に、南無阿彌陀仏の呼び声を聞かしていただく縁に遇っていると心に留めておいてください。

浄土真宗の教章(私の歩む道)

〈生活〉

親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来の
み心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身を
ふりかえり、**慚愧と歡喜のうちに、現世祈禱**
などにたよることなく**御恩報謝の生活を送る。**

親鸞聖人のご和讃『正像末和讃(悲歎述
懷讚)』に、

かなしきかなや道俗の

良日・吉日えらばしめ

天神・地祇をあがめつつ

ト占祭祀つとめとす

と詠われています。また、『高僧和讃(善
導讚)』では、

仏号むねと修すれども

現世をいのる行者をば

これも雑修となづけてぞ

千中無一ときらはるる

と詠われています。

上記の「浄土真宗の教章」の浄土真宗の
ご門徒の生活姿勢として記載されている
「現世祈禱」の否定は、「現世利益」その
ものを否定しているわけではないのでしよ

う。上述の親鸞聖人の一首目の和讃は、現
世の利益を得るために、日の良し悪しにこ
だわったり、神仏に頼んだり、占いに頼る
ことを否定されたのではないのでしょうか。
二首目の和讃は、「南無阿弥陀仏」のお
念仏をとえながら、この世でのしあわせ
(ご都合主義)を願うのは、浄土往生とは
無縁の行いであり、阿弥陀さまのご本願と
は全く違いますよと、私たちに告げてくだ
さっているのではないのでしょうか。

『教行信証』(信文類)には、
金剛の真心を獲得すれば、横に五趣八難の
道を超え、かならず現生に十種の益を獲
るものか十とする。一つには…

とあります。また、『浄土和讃』には、「現世利
益讚」十五首があります。

「現生」と「現世」はどう違うのか疑問に思い、
インターネットで違いを調べてみました。殆ど
同意語に扱われていましたが、一つだけ、次の
ようなことが掲載されておりました。

現生の利益と現世の利益

私たちは、美しい花を見ると、その花の美し
さをほめるけれども、花を咲かせている根っこ
ということはすこしも思わないことがありま
す。現世の利益というのは、美しく咲いている
花です。それに対して現生の利益というのは、
美しい花を咲かせている根っこでしょう。真宗
は現世の利益など問題にしない、そういう話で
はないのです。現世の利益を求めないような者

は、人間ではないでしょう。私たちは、やはり
人間としての幸せを求めるから、いろいろな現
実の問題とたたかうことがあるでしょう。ただ
問題は、私たちは花だけを摘み取るうとする
ことです。花だけを摘み取れば、花はすぐしお
れてしまいます。つまり、現世の利益というも
のだけを求めると、それは必ずしおれてしま
う。花だけを摘み取ればしおれるというのは、
言い換えれば、美しい花を見た感激というか、
よろこびがおとろえてしまうことです。それは
根っこがあつてはじめて本当によるこべるので
す。【ごころはひとつ】という歩み 唯信鈔
に聞く 宮城 颯 法蔵館 P75より】
コメント

「現世の利益」を求めることは、生きていくう
えで大事なことです。それは、生きる原動力と
なるからです。生きる糧ともいえます。さ
らに掘り下げて、(生きる)その先に死が待つて
いる、ということを意識して生きていく(現生
の利益を意識して生きていく)ことはより充実
した人生を送るうえで大事なことではないで
しょうか。

「現生の利益」をえた生活(生死問題が解決し
ている生活)は大安心です。生死問題という人
として生きていく根本的な問題が解決されて
いますから、こころでいう、美しい花だけでなく、
その「根っこ」を意識した生活をしていきたい
ものです。

おかげさまで 今日も 南無阿弥陀仏
「手品師」さんのブログより

現世利益と現生利益(1)

利益を説かない宗教はない

利益を説かない宗教はありません。釈尊の残された膨大な経典には、実に多岐にわたる利益が示されています。その幅広い利益論にはびっくりするものがあります。

仏法では利益という言葉よりも「饒益」という語が一般に用いられますが、判りやすく、利益といわれます。その意味は、仏の教えによって得られる幸福、恩恵ということです。

そして、自分を益することを功德といい、他を益することを利益といいます。この世でうける利益を現益(現世利益)といい、後の世でうける利益を当益(後世利益)といわれます。

しかし、この利益論はそれぞれの宗派、宗旨によってずいぶん異なります。たとえば、密教ではさまざまな恵み、利益を現世でうけるために、祈禱をします。浄土教系統の宗派では、利益はおのずから与えられるものとして、治病、延命、得財などを現世利益としています(『新仏教辞典』仲邑元監修)。

ただ、真宗などの考え方は少し変わっています。

(1) アミダ如来から賜る真実信心によつ

て生きる者は、かならず仏になることが決定した者である(現益といいます)。

(2) 信心決定した者は、次の世ではかならず浄土に生まれ(当益といいますが)。

(1) については、従来「現生においてかならず仏に成ることが決定した人生を生きる」現生正定聚の人生道」といい(2)は「往生即成仏の教え」といって、浄土国土に帰ることによって、ただちに仏に成る」といいます。

これらの信心理解は親鸞さんの独自のものでもあり、今、ここから始まっているのであって、臨終から始まるのではない、という四天です。これは、臨終業成(臨終の時にはじめて救いが完成する)という立場に対する、平生業成(今、ここでの生き方で救いが決定する)の教えとして示されてきました。

親鸞さんの教えが、ただ死後に浄土にうまれることが究極の目的であると説かれてきた歴史があります。しかし、これは誤りと言わなければならぬと考えます。浄土往生が目的ではなく、成仏が親鸞さんの究極課題でした。理想のユートピアに往つてひとりいい思いをするのが「往生」ではありません。それは逃避にすぎません。浄土は成仏する場であり、そこから新たな人間の救いが始まる場でした。

親鸞さんの仏法は、救いの宗教といわれることが多いのですが、その究極は「成仏道」にあったことを確認しておきたいと思えます。「弥陀の本願信ずべし/本願信ずる人はみな/撰取不捨の利益にて/無上覺をばさとのなり」という力強い和讃があります。

真宗の利益無上覺をさとると示されています。

親鸞さんの仏道の基本は、無上の道理法)をさとる、真理を覚知することにあつたのです。そこから、はじめて衆生利益が可能になるのです。仏に成ることは、人々を救うためでした。

利益、その究極は人々を幸せにするという仏(覚者)の営みだったので。親鸞さんの遺された著述の中に、衆生利益という語が多くみられます。

(『親鸞聖人「和讃」入門』
山崎龍明氏著)より

親鸞聖人は『御消息』の「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」に代表されるように自分だけの幸せ、利益を求められたのではなく、世の中の全ての人々(衆生)が安穩に暮らせるよう、仏さまのお慈悲に包まれている世界であることを知ってもらいたいと念い(いのり)続けておられたのではないでしょう。次回から、そういう視点から『現世利益和讃』を拝読してみましよう。

親鸞聖人御誕生八五〇年
立教開宗八〇〇年 慶讃法要企画

親鸞聖人を知ろう

「一緒に歩こう」

親鸞さまの道 ②

「比叡山時代」

出発地は、JR湖西線・比叡山坂本駅。ここから西に見える比叡山を目指します。途中、比叡山の守り神とされる日吉大社の鳥居をくぐり、さらに進むと約三十分で比叡山の麓、ケーブル坂本駅に着きます。ケーブルカーに乗り込み揺られること約十分、終点のケーブル延暦寺駅で降りると、そこはもう延暦寺の境内地です。

無動寺谷（東塔） 無動寺明王堂

最初に向かうのは無動寺明王堂です。液から無動寺までは約十分と比較的近いですが、砂利道の下り坂でえすので注意が必要です。

比叡山延暦寺の境内は、大きく東塔・西塔・横川の「三塔」に分かれ、それぞれに「谷」と呼ばれるお寺の集まりがあります。谷は三塔で十六を数え、総じて「三十六谷」と呼ばれます。無動寺は、このうち東塔の無動寺谷に位置しています。

無動寺は、七年の間に総計千日、約地球一周もの距離を歩く過酷な修行「千日回峰行」発祥の地です。無動寺には、千日回峰行の祖とされる相応和尚（八三一〜九一八）の像が立っています。

一説には、親鸞聖人も比叡山でこの回峰行をされたのではないかと、ともいわれています。聖人は二十九歳の時、京都の六角堂に百日間の参籠を試みられました。この参籠が毎夜比叡山から「きらら坂」を下って通われた「通いの参籠」であったとすれば、可能だと考えられるからです。現在でも、千日回峰行を終えた行者は、無動寺から六角堂の往復を三時間で歩くというのですから、驚きです。

大乘院

無動寺の南に位置するのが大乘院です

ここは親鸞聖人が比叡山に登り、はじめて修行された地と伝えられ、「親鸞聖人御修行舊跡」の石碑が建てられています。親鸞聖人がお得度をされた養和元（一一一八）年、師である慈円和尚は、無動寺谷の検校（寺院を監督する役職）を務めておられました。親鸞聖人も、和尚につれられて大乘院の門をくぐられたとしても不思議ではありません。

大乘院のご本尊は親鸞聖人の「そば喰いの木像」です。このお像にはこんな伝承があります。

先に述べたように、親鸞聖人は、二十年間の修行の末、これから歩むべき道に迷い六角堂に参籠されます。その最中、周りの僧侶達が夜な夜な抜け出す聖人を怪しみ、よからぬ噂が立ち始めます。

2011年5月13日
親鸞聖人750回大遠忌法要で東組として比叡山に参拝しました。比叡山さんのご配慮で、通常は大乘院にご本尊としてご安置されているそうですが、この期間だけ大講堂にご遷座されておりました。その時、写真に収めておらず、申し訳ありません。



大講堂



ある夜、師匠の慈円和尚がことの真偽を確かめるため皆に蕎麦を振る舞うと、居ないはずの聖人のお姿があるではないですか。聖人は事なきを得たのですが、翌朝それを知らず大乗院に戻ると、聖人の念持仏である阿弥陀仏の口元に蕎麦がついていました。なんと阿弥陀仏が聖人の身代わりになって蕎麦を食べられていたのです。なお、大乗院には『大乗院勤行聖典』があります。有り難いことに、天台宗、真宗大谷派、本願寺派のお勤めがまとめられた聖典です。大乗院参拝の際は、この勤行聖典でお勤めをさせていただきます。

東塔

大乗院から、ケーブル延暦寺駅まで一旦戻ります。復路は上り坂ですので、行きの倍の二十分かかりました。駅で一旦休憩の後、延暦寺の総本堂・根本中堂こんぽんちゅうどうの立つ東塔の中心エリアをめざします。約十分の行程です。

お昼時であれば、親鸞聖人の「そば喰い伝説」を偲びつつ、「鶴岳そば」でランチはいかがでしょう。なお、延暦寺会館でもお食事ができます。

その後は、石階段を上り、文殊楼へ。ちなみに、文殊楼から少し歩くと、蓮如上人が天台教義を学んだと伝わる蓮如堂や、法然堂という名のお堂もあります。

戒壇院

さて、次は大講堂です。堂内には、この山で修行をされた各宗派の祖師像が安置されていて、比叡山が「日本仏教の母山」であることが感じることが出来ます。ちなみに親鸞聖人は、ご本尊に向かって右側の五体のうちの真ん

中で、法然聖人のお隣にいらつしやいます。また、入り口の長押部分に親鸞聖人の肖像画もかかっています。お参りの際は、お見逃しなく。

戒壇院

続いて戒壇院にむかいます。伝教大師は、大乘戒を受戒できる戒壇の設立を朝廷に訴え



大講堂

大師滅後の天長四（八二七）年に最初の堂宇が建立されました。現在の戒壇院は、織田信長の焼き討ちによる焼失を経て、延宝六（一六七八）年に再建されたものです。九歳で得度された親鸞聖人が受戒されたのは二十歳前後といわれます。おそらく聖人も再建前の戒壇院で受戒されたのでしょう。浄土真宗では受戒をしません、他宗ではこれによって初めて正式な僧として認められる重要な儀式です。威厳のある重厚な伽藍の前に立つと、真摯に仏道に向き合う若き証人のお姿が浮かび、背筋が伸びる思いがしました。

西塔

西塔ではない堂
その後、阿弥陀堂、法華総持院東塔にお参りし、その間を抜けて西塔エリアへと移動します。

西塔では、第五世天台座主ざす円珍の住房

だった山王院堂、伝教大師の御廟のある浄土院にお参りし「にない堂」を目指します。「にない堂」は、「常行堂」と「法華堂」という二つのお堂のことで、両堂をつなぐ廊下を武蔵坊弁慶が天秤にして担いだという言い伝えから、この名があります。にない堂を抜け、さらに奥へ行くと西塔の本堂、釈迦堂があります。東塔からは約三十分の道程です。



『惠信尼消息』の「殿の比叡の山に堂僧つとめておはしましける」との記述から、親鸞聖人は常行堂の堂僧であったと考えられています。現在、常行堂は西塔にしかありませんが、昔は東塔と横川にもありました。覚如上人の『御伝鈔』

には、「楞嚴横川の余流を漕へて」とあり、親鸞聖人が修行されたのは源信和尚の流れをくむ横川の常行堂であると考えられます。

しかし、西塔には親鸞聖人住持の跡も

残っています。聖人は西塔でもご修行なさっていたのでしようか。静かな参道を歩いていると、向こうから聖人が歩いてこられるのではないかと思えてきません。



機があります。十分に準備してから出発しましょう。

まずは、一旦、山王院堂まで戻ります。分かれ道には案内表示がありますので、迷わないよう参考にしてください。山道を歩いていると、三体の仏像が彫られ「鎮護国家」と刻まれた石があります。京都御所からみて鬼門（北東）に位置する延暦寺は、仏教による国家の守護と同時に、都の鬼門除けの役割も担っていたことがわかります。さらに下っていくと、左手に叡山ロープウェイ・比叡山頂駅が見えます。徒歩での下山が心配な方は、叡山ロープウェイと叡山ケーブルをご利用ください。八瀬比叡山口駅（叡山電鉄本線）付近まで、比叡山中腹の大自然を眺めながら下山できます。さて、京都一周トレイルには要所にナンパーが振ってあります。「京都一周トレイル東山71」は、にない堂を出発してから約

きらら坂

最後に、京都一周トレイルを一部経由して、難所のきらら坂を下ります。これからはトイレがありません。西塔釈迦堂近くにお手洗いが、また箕淵弁財天横から続く、奥比叡ドライブウェイ

の駐車場には自動販売

一時間半、西塔エリアから、きらら坂登山口までのおおよそ中間地点です。この付近には、京都市内を一望できる絶景ポイントがあります。すばらしい眺めに、しばし疲れを忘れます。

さあその後は、ひたすら下山です。丸太を使った階段もありますが、段差の大小が余計脚に負担となるため要注意です。比叡山と俗世界との境界線「浄刹結界趾」を越え、さらに二百メートルほど下ると、「水飲対陣之趾」です。「水飲」の名称は、道の下に音羽川が流れ、参拝者の渴きを癒やしたことにちなむといわれます。このあたりの道は、とても勾配が急です。疲れのピークで、かつ滑りやすい道。油断は禁物です。

さらに三十分程歩くと、ようやく「きらら坂登山口」が見えてきます。登山口には「親鸞聖人御旧跡きらら坂」の石碑が建っています。にない堂から、実に二時間半が経過していました。

今回は、なかなかハードなコースでした。「親鸞聖人のご修行を思えばなんのこれしき！」と思いつつも、最後はバテバテ。しかし逆に、親鸞聖人の修行の厳しさ、そして道を求める思いの強さを感じることができたのは有り難いことでした。



稱讚寺 行事予定

二〇二一年 十月の行事予定



三日(日) 日曜礼拝 午前十時

六日(水) のんのん法話会 午後二時

一〇日(日) 日曜礼拝 午前十時

一六日(土) のんのん法話会 午後二時

一七日(日) 日曜礼拝 午前十時

二四日(日) 日曜礼拝 午前十時

二六日(火) のんのん法話会 午後二時

※お朝事のあつとめ 毎日午前七時

※お夕事のあつとめ 毎日午後六時

ひとよわ

人は弱からこそ

支えあて

生きる

二〇二一年「心のともしび」十月カレンダーより

二〇二一年 十一月の行事予定

六日(土) のんのん法話会 午後二時

七日(日) 日曜礼拝 午前十時

一四日(日) 日曜礼拝 午前十時

一六日(火) のんのん法話会 午後二時

二二日(日) 日曜礼拝 午前一〇時

二六日(金) のんのん法話会 午後二時

二〇二一年 十二月の行事予定

五日(日) 日曜礼拝 午前十時

六日(月) のんのん法話会 午後二時

一二日(日) 日曜礼拝 午前十時

一六日(木) のんのん法話会 午後二時

一九日(日) 日曜礼拝 午前十時

親鸞聖人報恩講 午後二時

二六日(日) 日曜礼拝 午前十時

のんのん法話会 午後二時

編集後記

初めて「親ガチャ」と聞いたときは、日本の未来を少し暗示するくらいドキッとしました。

NHKのニュースウェブを見て、その言葉が、SNS上で特に話題になっているようでした。記者が街頭で、高校生や若い方にインタビュしたら、多くは、言葉ぐらいは知っているけど、使うことはないそうです。そして、親とは喧嘩して、汚い言葉も使うけど、本音は親を好きだということです。多くは、軽い感じで、ノリで使っているようです。

その記事の中で、専門家の土井隆義教授(筑波大学)は、「今の若い人は、深刻なことを深刻に語るのは相手に負担をかける、と避ける傾向があり、『うちは貧乏だから』ってストレートに語るより『親ガチャに外れた』とちょっとソフトになって、聞かせる側も反応しやすく、関係を築く潤滑油のような気がする」親側が注意しなければならぬのは、親を非難したり、責任を押しつけている訳ではないということです。「自分の能力では超えられないものが目の前にあるという思いを伝える時の表現だと考えて欲しい。」と。「しかし、虐待されているとか、そうした厳しい家庭環境にある人が実際にそういう言葉を使って、自分の生きづらさを語っていることも理解する必要があります。」とコメントされていました。「子どもは親を選べない」という言葉自体は昔からあるのに、どうして今注目されたのか。ネットが発達し、他人と自分を比べやすくなったことも一因。現代は不安定な時代であり、揺るがないものは、生まれ持ったものと捉えている。そこに重きを置くと、果たして、生まれ持ったものは、揺るがないものなのでしょうか？ 私たちの全ては諸行無常・諸法無我であり、唯一揺るがない変わらないことはないのは、阿弥陀さまのご本願・南無阿弥陀仏のお念仏だけと知らされているのではないでしょう。

